



テントを廃棄するのではなく再生し、転換できたら

新しいカタチの楽しみ方を提案したい

—— やまぎんとのお会い

最初はやまぎんが開発したZERO-TEXについてまったく知らなかったんですが、調べていくうちにZERO-TEXが高品質な素材であること、再生可能エネルギーに変換する循環型システムがBIOTECHWORKS-H2にあるというのを知って興味を持ちました。アウトドア業界はアパレル業界程、素材開発が進んでいない領域なので、最初のイメージはテントには高級すぎるかなという印象でしたが、BIOTECHWORKS-H2で廃棄衣料を回収して水素に変換するという、裏にあるストーリーに魅力を感じました。

—— ogawaが考えるサステナブル

私たちは、使い終わったテントを他社製品、自社製品関係なく引き取り、新規購入の際にプライスに還元して、これからもキャンプを楽しんでもらえる取り組みをしています。そんな中であって、下取りしたものを捨てるのではなく、再生可能エネルギーにかえるというBIOTECHWORKS-H2の流れがピタッときたので、そのシステムを利用して回収した廃棄物をよりサステナブルに取り扱い、ブランディングを確立していきたいんです。回収したアウトドア用品もアパレル同様ファスナーやハトメなどの付属品がついているのですが、それもそのまま大丈夫だと聞いています。アウトドア業界もアパレル同様、生地を大量に使用するので、水素化プロジェクトを取り入れられたらいいなと思っています。

—— 声をカタチに。広がる夢

ライフスタイルの変化によって、使っていたものを捨てたり買い替えたりしたい人は多いですから、キャンプ場で自然を楽しみながら、そこで出るゴミも再生可能エネルギーへと転換できたらと思います。それがお客さまに新しいカタチの楽しみをご提供することにもつながると思うのです。長く使っていくことももちろんですが、アウトドアでも新しい仕組みができればいいなと。



—— 今後の課題は

みんなが知らないうちに再生した商品を使っている。そのようなサステナブルの自動化を行っていくには、ある程度の投資は必要だと思っています。でも、水素から再生可能エネルギーを作り出すというのが単純に面白いと思っていますし、応援していきたいです。そこに辿り着くまでのプラント建設の詳細などがもう少し詳しく理解でき、実際に稼働したら、その先の展開がもっといろいろ見えてくると感じています。

やっぱり一番得意としているのはテント。デザイナー、アドバイザー、若い直営のスタッフと共に、雰囲気作りを大切に組み込むスペシャリスト。



1914年創業
さまざまな会社の形態を経て110周年

キャンパルジャパン株式会社

代表取締役
伊川 良雄さん